

## ■大井記念（SⅡ）アラカルト（過去全 61 回の分析）

---

- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 17 回（昭和 47 年）は大井ダ 2400m で実施
- ※第 18 回（昭和 48 年）から第 22 回（昭和 52 年）は大井ダ 2600m で実施
- ※第 23 回（昭和 53 年）から第 39 回（平成 6 年）は大井ダ 2500m で実施
- ※第 40 回（平成 7 年）から第 58 回（平成 25 年）は大井ダ 2600m で実施
- ※第 59 回（平成 26 年）から第 61 回（平成 28 年）は大井ダ 2000m で実施
- ※第 59 回（平成 26 年）以降は 1～2 着馬に帝王賞への優先出走権を付与
- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 47 回（平成 14 年）はハンデキャップ競走として実施
- ※記録は平成 29 年 4 月 23 日時点

### ■単勝 1 番人気馬の 3 着内率は 6 割強

過去 61 回の優勝馬 61 頭中、3 分の 1 強にあたる 22 頭は単勝人気順が 1 番人気だった。なお、単勝 1 番人気馬は他に 2 着が 7 回、3 着が 8 回あり、3 着内率は 60.7% に達している。

### ■7 割強の年で単勝 3 番人気以内の馬が勝利

過去 61 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュは 20 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュは 7 回ある。

### ■連覇を果たした馬は過去に 2 頭

2 回連続で大井記念を制したのは、現在のところテツノカチドキ（第 30 回、31 回）、ハシルショウゲン（第 37 回、38 回）の 2 頭だけである。

### ■勝利数をもっとも多い馬齢は 5 歳

過去 61 回の優勝馬 61 頭を馬齢別に分類すると、4 歳の馬が 19 勝、5 歳の馬が 29 勝、6 歳の馬が 10 勝、そして 7 歳、8 歳、9 歳の馬が各 1 勝となっている。

## ■外国産馬、牝馬は各2勝

過去61回の優勝馬61頭中、外国産馬はドラーラアラビアン（第46回）、エイシンチャンプ（第51回）の2頭だけ、牝馬はパールブライト（第41回）とネームヴァリュー（第48回）の2頭だけである。

## ■昨年の勝利で的場文男騎手が史上初の記録を樹立

騎手別の勝利数を見ると、昨年の第61回を制した的場文男騎手が通算9勝となり、高橋三郎騎手の8勝を抜いて単独トップとなった。なお、既に廃止された競走を含め、同一のTCK重賞を9勝したジョッキーは他に存在しない。

## ■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師の別勝利数を見ると、3勝をマークした栗田金吾調教師、岡部盛雄調教師、赤間清松調教師、川島正行調教師がトップタイとなっている。

## ■4枠や3～4番の勝利数が突出

枠番別勝利数を見ると、13勝の4枠が単独トップ。2枠が9勝で続いている。また、馬番別勝利数を見ると、トップは9勝をマークした3番と4番だった。3位タイは6勝の7番と8番だ。

<伊吹雅也>